

田河水泡 略年譜

明治 32年 (1899年)	2月10日、東京市本所区林町(現・墨田区立川)に生まれる。本名・高見澤仲太郎。生家はメリヤスの家内工業。翌年、1歳の時、母・わきが死去する。
明治 34年 (1901年)	父・孝次郎再婚のため、東京市深川区松村町(現・江東区福住)の伯母夫婦に預けられる。
明治 38年 (1905年)	深川の私立の小学校入学後、市立臨海尋常小学校編入。この頃、従兄の高見澤遠治が油絵の道具箱を持って時々遊びにきていて、それを見て油絵にあこがれる。
大正 11年 (1922年)	日本美術学校図案科入学。杉浦非水、中川紀元の指導を受ける。「三科インデペンデント」に出品。以来、抽象画を描く。
大正 12年 (1923年)	前衛美術グループ「MAVO(マヴォ)」に参加、高見澤路直と名乗る。グループのメンバーに村山知義、柳瀬正夢、住谷磐根などがいた。
大正 15年 (1926年)	講談社に創作落語を持ち込み採用される。筆名・高澤路亭。
昭和 3年 (1928年)	初の連載漫画『目玉のチビちゃん』が「少年倶楽部」(講談社)で連載開始。漫画の筆名として田河水泡を名乗る。9月、小林富士子(文芸評論家・小林秀雄の妹・筆名高見澤潤子)と結婚。
昭和 6年 (1931年)	『のらくろ二等卒』が「少年倶楽部」新年号より連載開始。当初1年間の予定が、爆発的な人気を博し、延々11年間にわたり連載・単行本化された。
昭和 8年 (1933年)	『凸凹黒兵衛』が「婦人倶楽部」(講談社)別冊付録に5月号より連載開始。
昭和 9年 (1934年)	『サザエさん』の作者・長谷川町子入門。16歳で早くも「少女倶楽部」(講談社)に連載漫画を描く。
昭和 16年 (1941年)	内閣情報局より『のらくろ』他の漫画の執筆禁止令を受ける。理由は印刷紙の節約。
昭和 33年 (1958年)	『のらくろ自叙伝』が「丸」(潮書房)10月号より連載開始。後の『のらくろ』リバイバルブームのきっかけとなる。
昭和 42年 (1967年)	『のらくろ漫画全集』(講談社)刊行。戦前の「少年倶楽部」に連載した第1回から中止になるまでの全部をそのままの形で集めたもの。この全集によって、第二次のらくろブームが起こった。
昭和 56年 (1981年)	『滑稽の構造』(講談社)刊行。漫画や落語を題材として解説した笑いの研究本。
昭和 62年 (1987年)	11月、勲四等旭日小綬章受章。
平成元年 (1989年)	2月10日「田河水泡鳩寿(卒寿)とおたまじゃくしの還暦を祝う会」を90歳の誕生日に行う。8月「のらくろと火の鳥」手塚治虫ワールド展(日本橋・三越)に出品。12月12日、呼吸不全のため、北里大学病院にて死去。享年90歳。

主な展示作品



■『のらくろ』単行本・原画

『のらくろ』の物語は、昭和6年(1931年)田河水泡32歳の時の『のらくろ二等卒』にはじまり、昭和55年末(1980年)『のらくろ喫茶店』で完了します。この時、水泡81歳。水泡は生涯『のらくろ』を愛し描きつづけました。

※原画は定期的に展示替えます。

■「のらくろのいる風景」



晩年は、旅先でのスケッチに「のらくろ」が登場してきます。コンテと水彩で仕上げました。

■エッチング(銅版画)



昭和26年より始めた銅版画は、関野準一郎、駒井哲郎という一流の版画家に師事した本格的なもの。水泡の美的センスがうかがえます。



ぼくは
こうとう文化親善大使
でもあります。
どうぞよろしく。

本名
野良犬黒吉
のらくろ

田河水泡・のらくろ館 (入場無料)

公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団

江東区森下文化センター

〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17 TEL.03-5600-8666 FAX.03-5600-8677

URL : <http://www.kcf.or.jp>

開館時間 午前9:00～午後9:00

休館日 毎月第1・3月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、年末年始(12/29～1/3)

交通案内



都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅 A6 出口より徒歩8分

都営地下鉄大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅 A2 出口より徒歩8分

都バス門33系統「亀戸駅」⇄「豊海水産埠頭」「高橋」下車徒歩3分

都バス業10系統「とうきょうスカイツリー駅」⇄「新橋駅」、東20系統「錦糸町駅前」⇄「東京駅北口」

「森下五丁目」下車徒歩3分

江東区森下文化センター

たがわ すいほう

田河水泡・のらくろ館



田河水泡・のらくろ館

「のらくろというのは、実は、兄貴、ありや、みんな俺の事を書いたものだ」義兄小林秀雄との会話のなかで
「文藝春秋」1959(昭和34年10月号より)



たかみざわ なかたろう

田河水泡(本名:高見澤仲太郎 1899-1989)は、幼少期から青年期までを江東区で過ごした、本区ゆかりの漫画家です。

昭和6年(1931年)、大日本雄辯會講談社(現・講談社)の雑誌「少年倶楽部」に『のらくろ二等卒』を発表、爆発的な人気を博し、昭和初期を代表する漫画家となりました。

漫画「のらくろ」は、身寄りのない野良犬・のらくろが猛犬連隊という犬の軍隊へ入隊し活躍する物語です。最初は二等卒(二等兵)でしたが、徐々に階級を上げ、最終的には大尉まで昇進します。

自分の境遇にもめげず、明るく楽しく元気よく出世していくその姿を、当時のこども達は愛情を込めて応援しました。

平成10年(1998年)、ご遺族から作品や書斎机などの遺品が本区に寄贈されたことから、田河水泡が生涯愛し、その作品にも大きな影響を及ぼした深川の地に、平成11年(1999年)、「田河水泡・のらくろ館」が開館しました。



黒兵衛と白ちゃん



■生活

愛用の書斎机や道具類を置いた仕事場の再現、蔵書等、水泡を偲ばせる品々を展示します。晩年は、園芸、スケッチ、版画制作等の趣味と創作活動に精力的に活動しました。



ブル連隊長

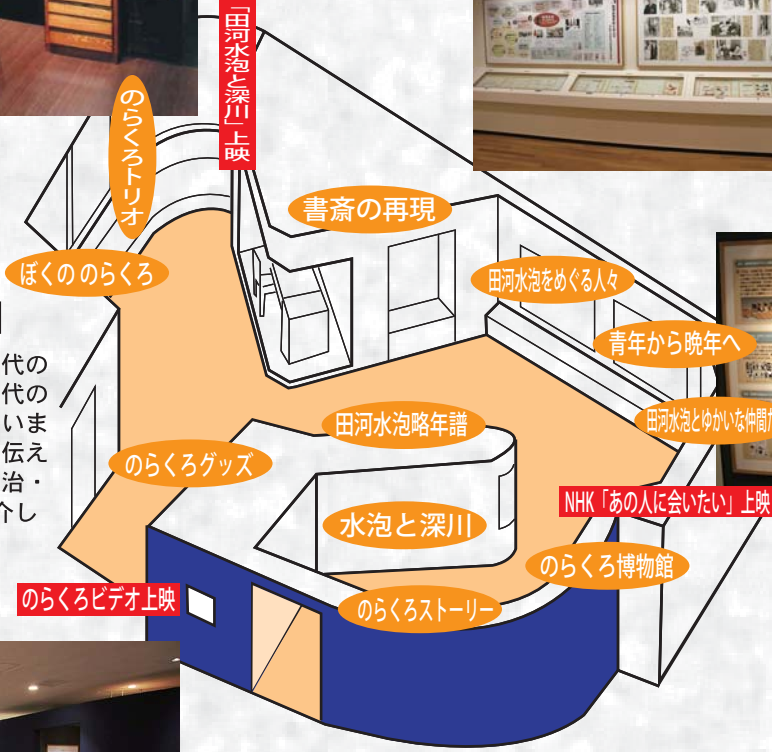
■水泡の生涯

年表や写真などを通して、水泡の生涯と業績、交流のあった人々を紹介します。水泡は、手塚治虫をはじめ現代の漫画家に多大な影響を与えました。

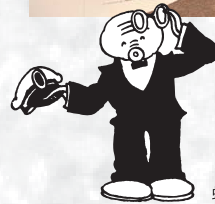


■水泡と深川

田河水泡の育った時代の深川は、まだ江戸時代の下町の風情が残っていました。当時の様子を伝える写真などで、「明治・大正の深川」を紹介します。



のらくろ館を訪れた漫画家のサイン色紙も展示しています。
※色紙は定期的に展示替えを行います。



蛸の八ちゃん



■のらくろ広場

平成22年11月、田河水泡・のらくろ館前に、漫画資料の展示と閲覧コーナー「のらくろ広場」がオープン。「のらくろ」はもちろん、田河水泡の著作、水泡ゆかりの作品、名作、話題の作品、漫画評論等の書籍、絵本など自由に閲覧できます。



■作品の紹介

「のらくろ」の単行本・原画の展示のほか、そのストーリーの一部や掲載紙・掲載期間なども紹介します。また、のらくろ以外のキャラクターも集合します。